

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／国内／株式	
信託期間	無期限（2000年5月2日設定）	
運用方針	主として、グロースマザーファンド受益証券に投資し、RUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックス（配当込み）をベンチマークとして、中長期的に同指数を上回る投資成果をめざして運用を行います。マザーファンド受益証券の組入比率は原則として高位を維持することとします。	
主要運用対象	ベビーフンド	グロースマザーファンド受益証券を主要投資対象とします。このほか、当ファンドで直接投資することがあります。
	マザーファンド	わが国の金融商品取引所に上場されている株式および店頭登録株式を主要投資対象とします。
主な組入制限	ベビーフンド	株式への実質投資割合に制限を設けません。 外貨建資産への投資は行いません。
	マザーファンド	株式への投資割合に制限を設けません。 外貨建資産への投資は行いません。
分配方針	経費等控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額を分配対象額とし、分配金額は、基準価額水準、市況動向等を勘案して委託会社が決定します。原則として、決算日の基準価額水準が当初元本額10,000円（10,000口当たり）を超えている場合に、当期の基準価額上昇分の範囲内で分配します。ただし、分配対象収益が少額の場合には、分配を行わないことがあります。	

運用報告書（全体版）

日本株スタイルセレクトオープン

愛称：ビッグ・ウィング・ワン

三菱UFJ
スタイルセレクト・
グロースファンド

愛称：飛躍



第51期（決算日：2026年3月10日）



受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
ここに謹んで運用経過等をご報告申し上げます。
今後とも一層のお引き立てを賜りますよう、よろしく
お願い申し上げます。



三菱UFJアセットマネジメント

東京都港区東新橋一丁目9番1号
ホームページ <https://www.am.mufg.jp/>

当運用報告書に関するお問い合わせ先	
お客さま専用 フリーダイヤル	0120-151034 （受付時間：営業日の9:00～17:00、 土・日・祝日・12月31日～1月3日を除く）
お客さまのお取引内容につきましては、お取扱いの販売会社にお尋ねください。	

本資料の表記にあたって

- ・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。
- ・一印は組入れまたは売買がないことを示しています。

○最近5期の運用実績

決 算 期	基 準 (分配落)	価 額		RUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックス		株 式 組 入 比 率	株 式 先 物 比 率	純 資 産 総 額
		税 込 分 配	み 期 金 騰 落	中 率	騰 落 率			
	円	円		%	%	%	%	百万円
47期(2024年3月11日)	10,714	700		12.9	441.39	14.2	95.9	1,393
48期(2024年9月10日)	10,085	0	△	5.9	429.53	△	97.2	1,276
49期(2025年3月10日)	9,975	0	△	1.1	438.21		97.3	1,232
50期(2025年9月10日)	11,284	700		20.1	506.49		98.1	1,350
51期(2026年3月10日)	13,046	1,800		31.6	570.69		96.8	1,507

(注) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注) RUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックス（配当込み）は、RUSSELL/NOMURA 日本株インデックスを構成するインデックスの一つです。RUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックスは、わが国の全金融商品取引所全上場銘柄の全時価総額（時価総額は全て安定持株控除後）の98%超をカバーするRUSSELL/NOMURA Total Marketインデックスのうち、高修正PBR銘柄により構成されています。

RUSSELL/NOMURA 日本株インデックスは、Frank Russell Companyと野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が作成している株価指数で、当該指数の知的財産権およびその他一切の権利は両社に帰属します。なお、両社は、当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「株式組入比率」、「株式先物比率」は実質比率を記載しております。

(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 (分配落)	価 額		RUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックス		株 式 組 入 比 率	株 式 先 物 比 率
		騰 落 率	騰 落 率	騰 落 率	騰 落 率		
(期 首)	円	%	%	%	%	%	%
2025年9月10日	11,284	—	506.49	—	98.1	—	—
9月末	11,555	2.4	511.41	1.0	97.9	—	—
10月末	13,108	16.2	557.65	10.1	98.0	—	—
11月末	12,909	14.4	549.48	8.5	98.3	—	—
12月末	12,726	12.8	543.71	7.3	97.7	—	—
2026年1月末	13,682	21.3	564.25	11.4	98.1	—	—
2月末	16,071	42.4	610.80	20.6	98.4	—	—
(期 末)							
2026年3月10日	14,846	31.6	570.69	12.7	96.8	—	—

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「株式組入比率」、「株式先物比率」は実質比率を記載しております。

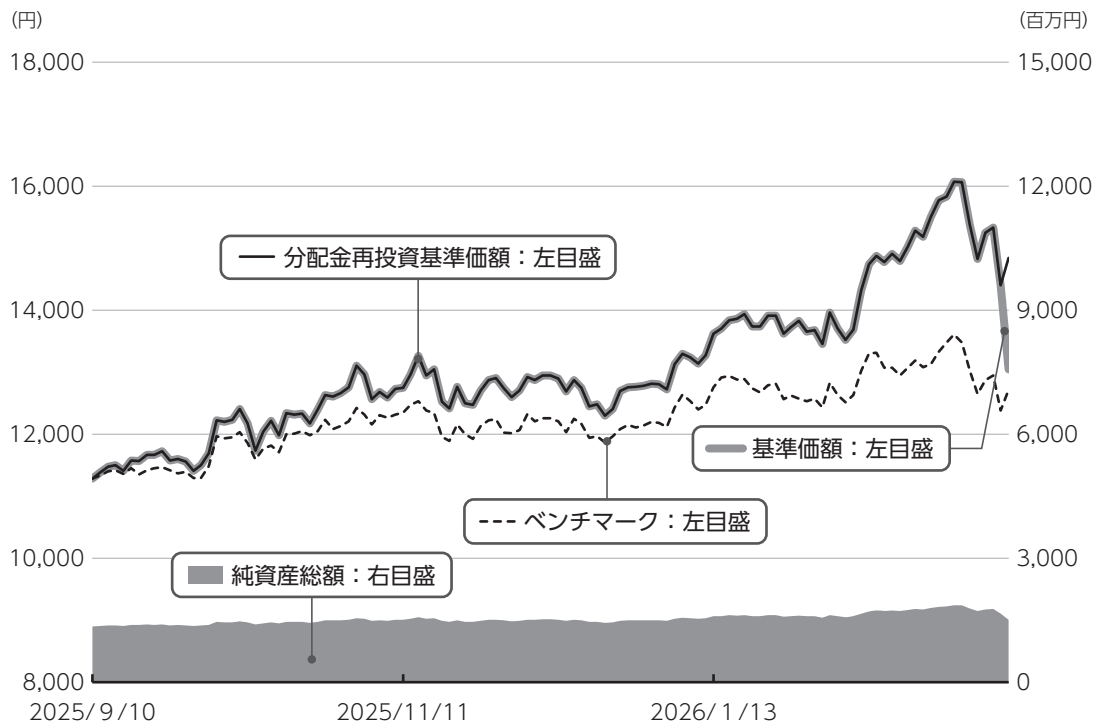
(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

運用経過

第51期：2025年9月11日～2026年3月10日

当期中の基準価額等の推移について

基準価額等の推移



第51期首	11,284円
第51期末	13,046円
既払分配金	1,800円
騰落率	31.6%
(分配金再投資ベース)	

※分配金再投資基準価額は、分配金が支払われた場合、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

※実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、受益者のみなさまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人の受益者のみなさまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

基準価額の動き

基準価額は期間の初めに比べ31.6%（分配金再投資ベース）の上昇となりました。

ベンチマークとの差異

ファンドの騰落率は、ベンチマークの騰落率（12.7%）を18.9%上回りました。

基準価額の主な変動要因

上昇要因

データセンター向け光ファイバーの需要増加が期待された「古河電気工業」や、ＡＩ（人工知能）用の先端ロジック半導体需要拡大からのメリットを享受し得る「東京エレクトロン」など、多くの保有銘柄の株価上昇が、基準価額の上昇要因となりました。

銘柄要因

上位５銘柄・・・古河電気工業、東京エレクトロン、日東紡績、イビデン、メイコー

下位５銘柄・・・Sansan、ソニーグループ、第一三共、サンリオ、リクルートホールディングス

第51期：2025年9月11日～2026年3月10日

投資環境について

国内株式市況

国内株式市況は上昇しました。

期間中、米国で政策金利の引き下げや情報技術分野の成長期待などを受けて株価が上昇したことが支援材料となりました。加えて国内では、新政権の発足を巡って

積極財政運営への期待が高まったことなどを背景に、国内株式市況は堅調に推移しました。ただし、期間末にかけては中東情勢の先行き不透明感などが株価の下押し要因となりました。

当該投資信託のポートフォリオについて

三菱ＵＦＪ スタイルセレクト・グロースファンド

グロースマザーファンド受益証券を通じてわが国の株式に投資しています。株式実質組入比率は、運用の基本方針にしたがい概ね高位水準を維持しました。

グロースマザーファンド

個別銘柄の選別においては、企業が置かれている事業環境、競争力、マネジメント力などに注目し、将来の成長が期待で

きる企業を中心に投資を行いました。組入銘柄数は54～63銘柄で推移させました。事業環境の変化や新規投資候補銘柄との相対比較などを勘案し、適宜銘柄入れ替えを行いました。当期間では、「Synspec t i v e」、「パワーエックス」、「ファナック」の3銘柄を新規に組み入れました。一方、「マネーフォワード」、「ニデック」、「キーエンス」など9銘柄を全株売却しました。

当該投資信託のベンチマークとの差異について

▶ 三菱ＵＦＪ スタイルセレクト・グロースファンド

ファンドの騰落率は、ベンチマークの騰落率（12.7%）を18.9%上回りました。

マザーファンド保有以外の要因

信託報酬などの費用がマイナス要因となりました。

マザーファンド保有による要因

プラス要因

業種配分要因：非鉄金属、ガラス・土石製品をベンチマークに対してオーバーウェイトとしていたことなどがプラスに寄与しました。

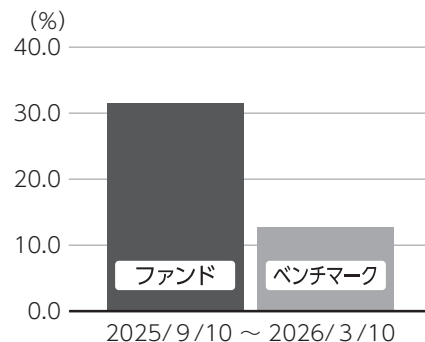
銘柄選択要因：「メイコー」、「古河電気工業」をベンチマークに対してオーバーウェイトとしていたことなどがプラスに寄与しました。

マイナス要因

業種配分要因：情報・通信業をベンチマークに対してオーバーウェイト、建設業をベンチマークに対してアンダーウェイト（非保有）としていたことなどがマイナスに影響しました。

銘柄選択要因：「Sansan」、「サンリオ」をベンチマークに対してオーバーウェイトとしていたことなどがマイナスに影響しました。

基準価額（ベビーファンド）とベンチマークの対比（騰落率）



※ファンドの騰落率は分配金込みで計算しています。

＞ 分配金について

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向、分配対象額の水準等を勘案し、次表の通りとさせていただきます。収益分配に充てなかった利益（留保益）につきましては、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用します。

分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項 目	第51期 2025年9月11日～2026年3月10日
当期分配金（対基準価額比率）	1,800 (12.124%)
当期の収益	1,800
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	3,937

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針 (作成対象期間末での見解です。)

▶ 三菱ＵＦＪ スタイルセレクト・グロースファンド

今後もグロースマザーファンド受益証券を高位に組み入れる方針です。

▶ グロースマザーファンド

引き続き、“グロース”（企業の成長性）に着目した運用を行います。銘柄選定にあたっては、企業の業績成長の大きなドライバーとなりえる経済の構造的な変化などに留意するとともに、個別企業の事業の競争力やマネジメントのクオリティなどに着目します。株価変動によるバリュエーションの水準、中長期的な成長性や事業リスク、流動性などを考慮しながら組入比率の調整や新規銘柄への入れ

替えを検討していく方針です。

足元では地政学リスクの高まりが懸念されているものの、中長期的な投資判断に変更はなく、生成ＡＩなどへの活用により業績拡大が期待される半導体関連産業や、省力化・効率化ニーズの高まりから底堅い需要が見込まれるデジタル化関連産業など、その構造的な成長性に着目します。併せて、個別企業の競争力強化や構造改革の進展といった変化を捉え、中長期の利益成長性の観点から企業価値の向上が見込まれる企業を精査し、ポートフォリオを構築します。

調査体制の強化を図ることで、成長市場の分析を高度化し、新たな投資テーマや銘柄発掘を促進することを目指します。

2025年9月11日～2026年3月10日

1万口当たりの費用明細

項目	当期		項目の概要
	金額 (円)	比率 (%)	
(a) 信託報酬	111	0.844	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 × (期中の日数 ÷ 年間日数)
(投 信 会 社)	(46)	(0.354)	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
(販 売 会 社)	(57)	(0.436)	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(7)	(0.054)	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	3	0.026	(b) 売買委託手数料 = 期中の売買委託手数料 ÷ 期中の平均受益権口数 有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料
(株 式)	(3)	(0.026)	
(c) その他費用	0	0.001	(c) その他費用 = 期中のその他費用 ÷ 期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(0)	(0.001)	ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
合 計	114	0.871	

期中の平均基準価額は、13,101円です。

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

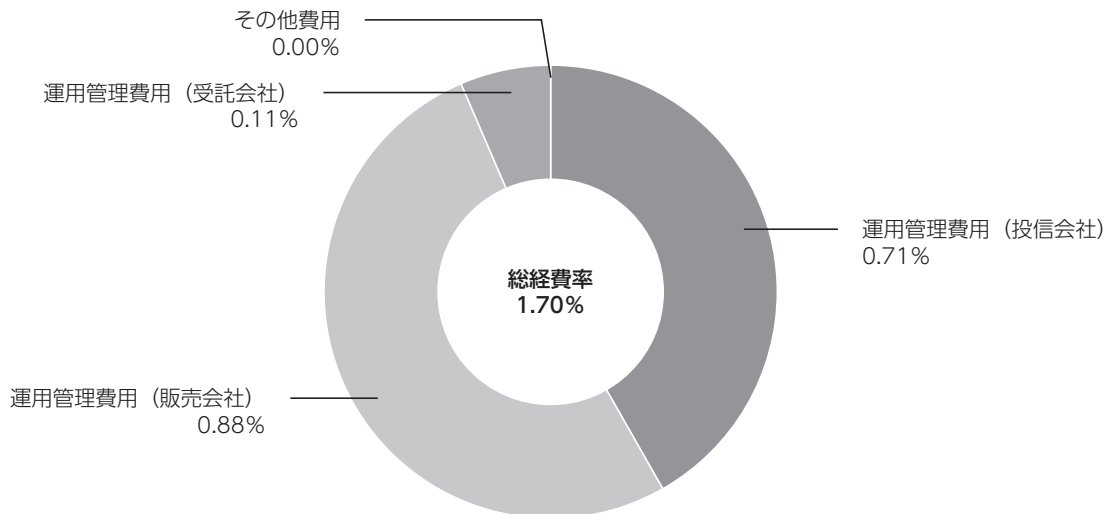
(注) 売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

■総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（１口当たり）を乗じた数で除した**総経費率（年率）は1.70%**です。



(注) 費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 前記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

○売買及び取引の状況

(2025年9月11日～2026年3月10日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘 柄	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
グロースマザーファンド	千口 1,085	千円 3,071	千口 113,054	千円 311,343

○株式売買比率

(2025年9月11日～2026年3月10日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
	グロースマザーファンド
(a) 期中の株式売買金額	1,032,083千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	2,531,207千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	0.40

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

○利害関係人との取引状況等

(2025年9月11日～2026年3月10日)

利害関係人との取引状況

<三菱ＵＦＪ スタイルセレクト・グロースファンド>

該当事項はございません。

<グロースマザーファンド>

区 分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$
株式	百万円 287	百万円 43	% 15.0	百万円 744	百万円 88	% 11.8

平均保有割合 60.5%

※平均保有割合とは、親投資信託の残存口数の合計に対する当該ベビーファンドの親投資信託所有口数の割合。

売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項 目	当 期
売買委託手数料総額 (A)	397千円
うち利害関係人への支払額 (B)	52千円
(B) / (A)	13.2%

(注) 売買委託手数料総額は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものです。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とはモルガン・スタンレーMUFJ証券です。

○組入資産の明細

(2026年3月10日現在)

親投資信託残高

銘 柄	期首(前期末)	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
	千口	千口	千円
グロースマザーファンド	614,578	502,609	1,469,781

○投資信託財産の構成

(2026年3月10日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
グロースマザーファンド	1,469,781	85.0
コール・ローン等、その他	259,331	15.0
投資信託財産総額	1,729,112	100.0

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2026年3月10日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	1,729,112,759
コール・ローン等	17,110,668
グロースマザーファンド(評価額)	1,469,781,440
未収入金	242,220,317
未収利息	334
(B) 負債	221,187,693
未払収益分配金	208,058,680
未払解約金	131,959
未払信託報酬	12,975,352
その他未払費用	21,702
(C) 純資産総額(A－B)	1,507,925,066
元本	1,155,881,560
次期繰越損益金	352,043,506
(D) 受益権総口数	1,155,881,560口
1万口当たり基準価額(C／D)	13,046円

<注記事項>

- ①期首元本額 1,196,590,255円
 期中追加設定元本額 3,713,083円
 期中一部解約元本額 44,421,778円
 また、1口当たり純資産額は、期末1.3046円です。

②分配金の計算過程

項 目	2025年9月11日～ 2026年3月10日
費用控除後の配当等収益額	6,789,118円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	403,600,467円
収益調整金額	3,899,613円
分配準備積立金額	248,951,083円
当ファンドの分配対象収益額	663,240,281円
1万口当たり収益分配対象額	5,737円
1万口当たり分配金額	1,800円
収益分配金金額	208,058,680円

○損益の状況 (2025年9月11日～2026年3月10日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	29,709
受取利息	29,709
(B) 有価証券売買損益	423,356,930
売買益	431,019,299
売買損	△ 7,662,369
(C) 信託報酬等	△ 12,997,054
(D) 当期損益金(A＋B＋C)	410,389,585
(E) 前期繰越損益金	248,951,083
(F) 追加信託差損益金	△ 99,238,482
(配当等相当額)	(3,898,275)
(売買損益相当額)	(△103,136,757)
(G) 計(D＋E＋F)	560,102,186
(H) 収益分配金	△208,058,680
次期繰越損益金(G＋H)	352,043,506
追加信託差損益金	△ 99,238,482
(配当等相当額)	(3,899,613)
(売買損益相当額)	(△103,138,095)
分配準備積立金	451,281,988

- (注) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。
 (注) (C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。
 (注) (F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

○分配金のお知らせ

1 万口当たり分配金（税込み）	1,800円
-----------------	--------

- ・分配金は、分配後の基準価額と個々の受益者の個別元本との差により、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」に分かれます。
- ・分配後の基準価額が個別元本と同額または上回る場合は、全額が普通分配金となります。分配後の基準価額が個別元本を下回る場合には、下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）となり、残りの額が普通分配金となります。
- ・元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、分配金発生時に個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。

*三菱ＵＦＪアセットマネジメントでは本資料のほかに当ファンドに関する情報等の開示を行っている場合があります。詳しくは、取り扱い販売会社にお問い合わせいただくか、当社ホームページ（<https://www.am.mufg.jp/>）をご覧ください。

グロースマザーファンド

《第51期》決算日2026年3月10日

[計算期間：2025年9月11日～2026年3月10日]

「グロースマザーファンド」は、3月10日に第51期の決算を行いました。

以下、法令・諸規則に基づき、当マザーファンドの第51期の運用状況をご報告申し上げます。

運 用 方 針	RUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックス（配当込み）をベンチマークとし、中長期的に同指数を上回る投資成果をめざして運用を行います。わが国の金融商品取引所に上場されている株式および店頭登録株式の中から、将来の成長が期待できる銘柄に投資します。銘柄選定にあたっては、ファンドマネジャーおよび当社アナリストの企業訪問調査をベースにした、企業の定性評価（企業が置かれている事業環境、競争力、マネジメント力等に注目します。）を重視します。株式の組入比率は原則として高位を維持することとします。
主 要 運 用 対 象	わが国の金融商品取引所に上場されている株式および店頭登録株式を主要投資対象とします。
主 な 組 入 制 限	株式への投資割合に制限を設けません。 外貨建資産への投資は行いません。

○最近5期の運用実績

決 算 期	基 準 価 額		RUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックス		株 組 入 比 率	株 先 物 比 率	純 資 産 額
		期 騰 落 中 率	(配当込み)	期 騰 落 中 率			
	円	%		%	%	%	百万円
47期(2024年3月11日)	19,061	13.9	441.39	14.2	98.0	—	2,429
48期(2024年9月10日)	18,107	△ 5.0	429.53	△ 2.7	97.9	—	2,202
49期(2025年3月10日)	18,069	△ 0.2	438.21	2.0	98.5	—	1,989
50期(2025年9月10日)	21,918	21.3	506.49	15.6	98.3	—	2,223
51期(2026年3月10日)	29,243	33.4	570.69	12.7	99.3	—	2,449

(注) RUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックス（配当込み）は、RUSSELL/NOMURA 日本株インデックスを構成するインデックスの一つです。RUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックスは、わが国の全金融商品取引所全上場銘柄の全時価総額（時価総額は全て安定持株控除後）の98%超をカバーするRUSSELL/NOMURA Total Marketインデックスのうち、高修正PBR銘柄により構成されています。

RUSSELL/NOMURA 日本株インデックスは、Frank Russell Companyと野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が作成している株価指数で、当該指数の知的財産権およびその他一切の権利は両社に帰属します。なお、両社は、当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額	騰 落 率	RUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックス (配当込み)		株 組 入 比 率	株 先 物 比 率
			騰 落 率	騰 落 率		
(期 首) 2025年 9 月10日	円 21,918	% —	506.49	% —	% 98.3	% —
9 月末	22,466	2.5	511.41	1.0	98.2	—
10月末	25,528	16.5	557.65	10.1	98.3	—
11月末	25,175	14.9	549.48	8.5	98.5	—
12月末	24,854	13.4	543.71	7.3	98.0	—
2026年 1 月末	26,762	22.1	564.25	11.4	98.4	—
2 月末	31,489	43.7	610.80	20.6	98.7	—
(期 末) 2026年 3 月10日	29,243	33.4	570.69	12.7	99.3	—

(注) 騰落率は期首比。
(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

○運用経過

●当期中の基準価額等の推移について

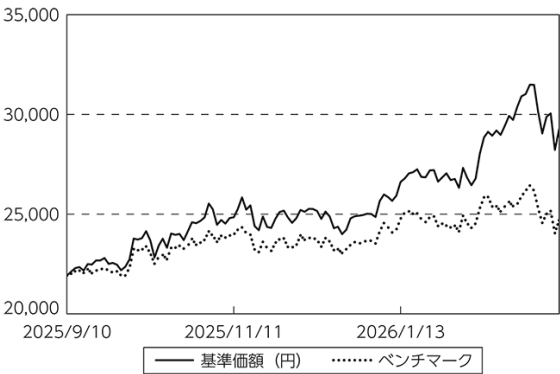
◎基準価額の動き

基準価額は期間の初めに比べ33.4%の上昇となりました。

◎ベンチマークとの差異

ファンドの騰落率は、ベンチマークの騰落率(12.7%)を20.7%上回りました。

基準価額等の推移



(注) ベンチマークは期首の値をファンド基準価額と同一になるよう指数化しています。

●基準価額の主な変動要因

(上昇要因)

データセンター向け光ファイバーの需要増加が期待された「古河電気工業」や、AI（人工知能）用の先端ロジック半導体需要拡大からのメリットを享受し得る「東京エレクトロン」など、多くの保有銘柄の株価上昇が、基準価額の上昇要因となりました。

(銘柄要因)

上位5銘柄…「古河電気工業」、「東京エレクトロン」、「日東紡績」、「イビデン」、「メイコー」
下位5銘柄…「Sansan」、「ソニーグループ」、「第一三共」、「サンリオ」、「リクルートホールディングス」

●投資環境について

◎国内株式市況

- ・国内株式市況は上昇しました。
- ・期間中、米国で政策金利の引き下げや情報技術分野の成長期待などを受けて株価が上昇したことが支援材料となりました。加えて国内では、新政権の発足を巡って積極財政運営への期待が高まったことなどを背景に、国内株式市況は堅調に推移しました。ただし、期間末にかけては中東情勢の先行き不透明感などが株価の下押し要因となりました。

●当該投資信託のポートフォリオについて

- ・個別銘柄の選別においては、企業が置かれている事業環境、競争力、マネジメント力などに注目し、将来の成長が期待できる企業を中心に投資を行いました。
- ・組入銘柄数は54～63銘柄で推移させました。事業環境の変化や新規投資候補銘柄との相対比較などを勘案し、適宜銘柄入れ替えを行いました。当期間では、「Synspective」、「パワーエックス」、「ファナック」の3銘柄を新規に組み入れました。一方、「マネーフォワード」、「ニデック」、「キーエンス」など9銘柄を全株売

却しました。

●当該投資信託のベンチマークとの差異について (プラス要因)

- ・業種配分要因：非鉄金属、ガラス・土石製品をベンチマークに対してオーバーウェイトとしていたことなどがプラスに寄与しました。
- ・銘柄選択要因：「メイコー」、「古河電気工業」をベンチマークに対してオーバーウェイトとしていたことなどがプラスに寄与しました。

(マイナス要因)

- ・業種配分要因：情報・通信業をベンチマークに対してオーバーウェイト、建設業をベンチマークに対してアンダーウェイト（非保有）としていたことなどがマイナスに影響しました。
- ・銘柄選択要因：「Sansan」、「サンリオ」をベンチマークに対してオーバーウェイトとしていたことなどがマイナスに影響しました。

○今後の運用方針

- ・引き続き、“グロース”（企業の成長性）に着目した運用を行います。銘柄選定にあたっては、企業の業績成長の大きなドライバーとなりえる経済の構造的な変化などに留意するとともに、個別企業の事業の競争力やマネジメントのクオリティなどに着目します。株価変動によるバリュエーションの水準、中長期的な成長性や事業リスク、流動性などを考慮しながら組入比率の調整や新規銘柄への入れ替えを検討していく方針です。
- ・足元では地政学リスクの高まりが懸念されているものの、中長期的な投資判断に変更はなく、生成AIなどへの活用により業績拡大が期待される半導体関連産業や、省力化・効率化ニーズの高まりから底堅い需要が見込まれるデジタル関連産業など、その構造的な成長性に着目します。併せて、個別企業の競争力強化や構造改革の進展といった変化を捉え、中長期の利益成長性の観点から企業価値の向上が見込まれる企

業を精査し、ポートフォリオを構築します。

- ・調査体制の強化を図ることで、成長市場の分析を高度化し、新たな投資テーマや銘柄発掘を促進することを目指します。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2025 年 9 月 11 日～2026 年 3 月 10 日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 売 買 委 託 手 数 料 (株 式)	円 7 (7)	% 0.026 (0.026)	(a) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料
合 計	7	0.026	
期中の平均基準価額は、25,600円です。			

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
(注) 各比率は 1 万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第 3 位未満は四捨五入してあります。

○売買及び取引の状況

(2025 年 9 月 11 日～2026 年 3 月 10 日)

株式					
		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
国 内	上場	千株 113 (79)	千円 287,593 (ー)	千株 193	千円 744,490

(注) 金額は受渡代金。
(注) ()内は株式分割・増資割当および合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

○株式売買比率

(2025 年 9 月 11 日～2026 年 3 月 10 日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合	
項 目	当 期
(a) 期中の株式売買金額	1,032,083千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	2,531,207千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	0.40

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

○利害関係人との取引状況等

(2025年9月11日～2026年3月10日)

利害関係人との取引状況

区 分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況 B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況 D	$\frac{D}{C}$
	百万円	百万円	%	百万円	百万円	%
株式	287	43	15.0	744	88	11.8

売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項 目	当 期
売買委託手数料総額 (A)	658千円
うち利害関係人への支払額 (B)	87千円
(B) / (A)	13.3%

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とはモルガン・スタンレーMUF G証券です。

○組入資産の明細

(2026年3月10日現在)

国内株式

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
化学 (4.3%)			
トリケミカル研究所	16.8	14.3	45,903
富士フィルムホールディングス	2	1.7	5,128
デクセリアルズ	25.2	21.4	49,936
ユニ・チャーム	5.8	2.9	2,663
医薬品 (3.2%)			
ネクスラファーマ	14.6	12.4	11,631
第一三共	11.7	14.9	42,405
ペプチドリーム	17.8	15.2	22,974
ガラス・土石製品 (6.0%)			
日東紡績	6.3	3	63,510
MARUWA	1.6	1.4	83,146
非鉄金属 (6.0%)			
古河電気工業	7.9	5.3	145,511
機械 (6.6%)			
ディスコ	0.8	0.7	48,853
三井海洋開発	2.9	1.8	23,742
SMC	0.6	0.5	33,760
ダイキン工業	2	1.7	32,682
グローリー	6.3	5.4	21,438
電気機器 (36.2%)			
イビデン	8	11	86,163
パワーエックス	—	7	30,800
日立製作所	26.5	22.5	110,970
富士電機	5.6	4.8	52,728
ニデック	4.6	—	—
日本電気	7.8	21.3	95,850
ルネサスエレクトロニクス	11.7	10	25,495
アンリツ	4.7	4.1	11,545
ソニーグループ	28.9	24.6	83,713
メイコー	6.1	4.7	112,894
アドバンテスト	6.2	2.3	55,372
キーエンス	0.2	—	—
レーザーテック	0.5	0.4	13,908
ファナック	—	2.2	13,536
東京エレクトロン	5.6	4.7	188,141
輸送用機器 (4.1%)			
川崎重工業	5.1	4.3	70,176
トヨタ自動車	0.9	0.8	2,778
スズキ	15.8	13.4	27,664

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
精密機器 (2.8%)			
リガク・ホールディングス	20	17	32,334
テルモ	1.2	—	—
HOYA	0.2	0.2	5,489
朝日インテック	10.8	9.2	29,725
その他製品 (3.1%)			
MTG	1.6	1.4	8,498
アシックス	18.1	15.4	66,697
情報・通信業 (12.2%)			
Synspective	—	39.8	51,461
F F R Iセキュリティ	3.6	3.1	23,219
GMOペイメントゲートウェイ	1	—	—
マネーフォワード	7.9	—	—
ビジョナル	0.7	—	—
エクサウィザーズ	13	28.2	19,035
S a n s a n	42	25.5	31,186
メドレー	2.3	2	3,842
J M D C	2.4	2.1	8,253
NTT	21.2	—	—
東宝	1.3	18.1	29,267
コナミグループ	3.2	4	80,760
ソフトバンクグループ	4	13.8	50,121
卸売業 (4.7%)			
伊藤忠商事	3.4	14.6	30,477
丸紅	9.7	8.2	44,386
サンリオ	5	7.2	40,183
小売業 (7.5%)			
トライアルホールディングス	27.5	23.5	88,830
FOOD & LIFE COMPANIE	9.3	7.9	73,351
ファーストリテイリング	0.7	0.3	19,275
サービス業 (3.3%)			
アストロスケールホールディングス	30.9	26.6	26,626
エムスリー	13	11.1	18,348
オリエンタルランド	1.1	—	—
ラウンドワン	7	3.5	3,311
リクルートホールディングス	5.6	4.8	31,670
ペイカレント	1	—	—
合 計	株 数 ・ 金 額	529	528 2,431,373
	銘柄数<比率>	61	55 <99.3%>

(注) 銘柄欄の()内は、国内株式の評価総額に対する各業種の比率。

(注) 評価額欄の< >内は、純資産総額に対する評価額の比率。

○投資信託財産の構成

(2026年3月10日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
株式	千円 2,431,373	% 85.6
コール・ローン等、その他	407,995	14.4
投資信託財産総額	2,839,368	100.0

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2026年3月10日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	2,839,368,960
コール・ローン等	37,288,402
株式(評価額)	2,431,373,070
未収入金	368,632,939
未収配当金	2,073,820
未収利息	729
(B) 負債	389,968,220
未払解約金	389,968,220
(C) 純資産総額(A－B)	2,449,400,740
元本	837,599,743
次期繰越損益金	1,611,800,997
(D) 受益権総口数	837,599,743口
1万口当たり基準価額(C／D)	29,243円

<注記事項>

- ①期首元本額 1,014,514,996円
期中追加設定元本額 9,818,794円
期中一部解約元本額 186,734,047円
また、1口当たり純資産額は、期末2.9243円です。

②期末における元本の内訳(当親投資信託を投資対象とする投資信託ごとの元本額)

三菱UFJ スタイルセレクト・グロースファンド	502,609,664円
三菱UFJ スタイルセレクト・ブレンッドファンド	334,990,079円
合計	837,599,743円

○損益の状況 (2025年9月11日～2026年3月10日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	11,661,741
受取配当金	11,553,250
受取利息	108,453
その他収益金	38
(B) 有価証券売買損益	701,396,190
売買益	843,818,340
売買損	△ 142,422,150
(C) 当期損益金(A＋B)	713,057,931
(D) 前期繰越損益金	1,209,094,002
(E) 追加信託差損益金	15,192,304
(F) 解約差損益金	△ 325,543,240
(G) 計(C＋D＋E＋F)	1,611,800,997
次期繰越損益金(G)	1,611,800,997

- (注) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。
(注) (E)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。
(注) (F)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。